

## 嶺北中山間地域の公共交通について

## 大川村公共交通の現状

田井～大川局～長沢、日ノ浦、桑瀬

大川局～黒丸

以上の路線があり運行本数は

田井～大川局 往復 5 便

大川局～長沢（日ノ浦経由） 往復 2 便

大川局～桑瀬（日ノ浦経由） 往復 1 便

大川局～黒丸 往復 2 便

の運行がありますが、そのすべてが赤字路線です。（補助金により運行）

大川村の人口集中地域は小松地区であり役場、学校施設、社会福祉協議会、農協、森林組合、診療所、商店等がありますが、医療機関や大型の商業施設等は無い為、医療や買い物等を必要とする場合には田井、本山地区に出かけざるを得ません。

人口の過疎化もあり今後も不採算路線の改善は見込まれない事から現状の路線バスの運行には限界があると考えられます。また高齢となり運転免許証を返上する高齢者が自宅から、公共の路線バスの停留所までの数キロを徒歩で移動するには無理があり、そのすべてに福祉バスを提供するには行政の負担が大きくなる事から、今後の中山間地域の公共交通の運行については、まったく新しい方式を考案していく必要があると考えます。

以下に一つの案を示します。

公共のバスに準じた扱い

路線バス＝乗合タクシー方式

路線に拘らず細い道も走行する事から 8 人～4 人乗り

乗車区間自宅～目的地

中山間地域（大川村）から人口集積地田井、本山地区に限る

（場所＝医療機関、各商店、公共機関、介護施設等）

## 料金について

### 現行

田井～大川局 640円 ÷ 1.8K = 36円

田井～井野川 980円 ÷ 2.6K = 38円

現行の料金を参考（妥当な料金は？）

1K = 40円 雪道 + 1K〇〇円

### 利用方法予約方式

利用の連絡原則一日前迄

乗車スペースがあれば当日でも可

### 予約の方式

電話、インターネット等

連絡時利用の時刻（往復）を伝える

予め基本時刻を設定すべきか否か

競合者が居る場合の時刻調整（ピックアップの順番）

移動手段として利用する旅行者利用可

宅配用小包、小荷物の集配所への移送

（現行の料金に移送料金1Kg当たりの手数料を必要とするのか？）

## 問題点について

車両の確保

運転手の確保

利用者

乗車何名で採算が取れるのか

一月当たり、一日当たり

試験期間を設けて実施する場合妥当な期間は

貨客混載については

大川村村民396人のみだと人口の関係で難しいと思われるが近隣の町  
村民本山町3573人、大豊町3962人、土佐町3997人を含めるとど  
うなのか